

## まえがき

私たちは誰しも、幸せになりたいという欲求を持っています。

できることなら空腹や外敵からの脅威にさいなまれることなく、より心地のよい快適な環境で日々を過ごしたいと思っています。

人によつてそのかたちに違いはあれ、その願いは人類にとつて普遍的なものであり、あらゆる先人たちがこの願いをかなえるために知恵を絞ってきました。

その欲求があつたからこそ、人類は文明を発展させ、今日における豊かな生活を実現させるに至っているのです。

その無数の発明や改革を生み出してきたのは、紛れもなく人間の行つてきた「仕事」のおかげにほかなりません。

私たちの住む日本だけを見ても、第二次世界大戦後の復興から高度経済成長期、バブル景気を経て無数の製品やサービスが生まれ、それに比例して多くの「仕事」が生まれてきました。

このように、今日の豊かな経済や暮らしが実現できたのは「仕事」のおかげであり、その行動原理は人間の持つ「幸せになりたい」という欲求に根ざしています。

人々は仕事を通して自らの能力を発揮し、周囲とのつながりを持つて社会に貢献することで、自分たちの生活をより快適に変化させてきたのです。

すなわち、あらゆる人々が携わる「仕事」とは、私たちの生活を便利で快適にするものであり、社会を発展させて人々を幸せにするものなのです。

ところが、現代の社会を見渡してみると、それら仕事の中での人間関係や社会環境などによって息苦しさを感じる人々が増えてきています。

私たちの住む日本でも、仕事上での人間関係や職場環境のストレスによって精神を病み、うつ病になったり自殺してしまったりする人は少なくありません。

関わる人々を幸せにするはずの仕事が、それに従事する人を不幸にしているのです。

本来、人間にとつての「仕事」とは、ほかの動物たちと同じように「毎日の食料を得て生き永らえるための活動」でした。

ただ生きるために食べ、安全に眠り、パートナーを見つけて子孫を残す。ほかの動物たちと変わらないこのライフサイクルの中で行う、獲物を狩ることや漁に出ること、道具を作ること、木の実を採ることなどこそがまさに「仕事」の原点であり、そうした活動こそが人々に幸福を与えてきたのです。

物質や経済に貧しい後進国には、人間の生活に最低限必要な衣食住すらも十分に満たされない人々が多く住んでいます。そのため、このような環境に暮らす人々にとっては、食料を得て安全に眠ることがかなえられるだけで、一定の幸せを感じることができなのです。

ところが、物質や経済が豊かになり、衣食住の不便が解消されてくるにしたがって、そこで暮らす人々は、これらの原始的な欲求が満たされるだけでは幸せを感じられなくなってきました。

相対的に幸福感への要求は高まり、衣食住という原始的な欲求を飛び越えて、精神的な欲求を満たしたいと願うようになったのです。

その「より幸せになりたい」という思いは人間の普遍的な欲求であり、この欲求は、スポーツや音楽、水族館や遊園地などの娯楽や文化を生み出しました。

これらの娯楽や文化が日常にあふれている今日ですら、生きづらさやストレスを感じて、満

たされない気持ちを抱えている人が多く見られます。

そのような人たちが満たされ、幸福感を感じられるようになるには、どうすればいいのでしょうか。

本書では、その鍵となる事柄こそがまさに「仕事」にあると考えます。

仕事とは、それを行うことによって社会を便利に快適にし、周りの人に幸せを与えるものです。獲物を狩るといった仕事は、自分と自分の仲間の空腹を満たし、お互いが幸せになれることにはずなのです。

ところが現代では、仕事を行うことによって周りには幸せになるが、それに従事したその人自身が精神を病んでしまうという、不幸な結果を招いてしまっています。

私たちはその原因こそが、その人の仕事との関わり方……つまり「働き方」にあると考え、その人たちが自分の個性や能力を十分に生かして社会に貢献し、その人自身も周囲も、ともに幸せになれるような環境を作りたいと考えています。

本書では、そういった「仕事」を通した幸せを実現するための手段として、「シェアリング社

会」という概念を提唱します。

第1章では、現代社会を取り巻く労働環境における社会問題について、私の実体験を基にお話していきます。

第2章では、「狩猟民族」と「農耕民族」という、現代の労働環境の基となった古代の人間の社会様式を取り上げ、その文化を踏まえた現代の労働環境との共通点についてお話します。

そして第3章、第4章にて、「狩猟民族」「農耕民族」という二つの文化を踏まえ、現代の社会問題を解決するための手段である「シェアリング社会」という概念、そしてその概念に基づいて私たちが立ち上げた「シェアエンジンアリング」というコミュニティについてお話します。

本書で取り上げる「シェアリング社会」という概念は、最先端でありつつも古来、人類が大切にしてきた考え方であり、現代を生きるビジネスマン、とりわけ起業や独立を目指す方、もしくはすでに個人事業主やフリーランスとして事業活動を行う方にとって非常に画期的な考え方です。

本書を通して、古来、大切にされてきた「シェアリング」の文化を知り、一人でも多くの方が労働環境のストレスから解放されて、仕事を通じた幸せを感じられるようになれば幸いです。